

猪名川町立六瀬幼稚園 令和4年度学校関係者評価書

【教育目標】	豊かな心と健やかな体をもち 生き生きと生活する幼児の育成
めざす幼稚園像	地域に愛され、信頼される幼稚園
めざす子ども像	元気いっぱい遊ぶ子 感性豊かな思いやりのある子 自分で考え行動できる子

学校関係者評価総評									
・地域の公立幼稚園として安定した園運営ができる。長い目で見た時、園児数の減少や施設の老朽化は課題となってくるが、現状は保護者の満足度も高く、安定している。									
・園の様子をお聞きして、小学校の先生が幼稚園の保育の様子や方針について知る機会を持つ必要があるなと思いました。主体的な学びに向かうために、園が大事にしていることを知り、それらを小学校がどう引き継いでいかか考えていく必要を感じました。									
・就園前からコロナ禍を過ごしてきた子ども達に何が必要かなど、しっかり見極めかかわり、たくさんの実体験を通して保育実践できていたことが素晴らしい。									

(A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない)

評価の観点	教職員	評価基準	園の改善方策							自己評価は適切か	改善方策は適切か	学校関係者評価委員の提言
			A	B	C	D	AB評価					
園運営	教育目標「豊かな心と健やかな体をもち、生き生きと生活する幼児の育成」は達成できたか	100% 0% 0% 0% 100%	A	・「健やかな体」を育む事や落ち着いて話を聞く力をつけるために、継続的にリズム運動や頑張りタイム、マラソンや縄跳びなどに取り組むことで体幹を鍛えるとともに、基礎的な体力づくりを行った。								
	園行事を幼児が主体的に楽しく参加できるよう計画し、実施できたか	60% 40% 0% 0% 100%	A	・大きな行事については、年々人数が少なくなっている中で、学年単位で活動、異年齢児と一緒に活動など工夫して行ってきた。特に3歳児保育も始まり3歳児と5歳児の発達や、力をつけるためには何が必要かを見極め、行事のどちらを考える必要がある。								
	園行事やオーブン参観は保護者や地域が参加しやすいように実施されていたか	60% 40% 0% 0% 100%	A	・今年度も常時いる職員が5名と職員だけで行事を運営することが難しかった。しかし、保護者やボランティア・地域の皆様の協力していただき、行事を運営することができた。次年度は、学校運営協議会を導入し、積極的に職員以外の方のアイデアや声を活かしながら、園運営を行っていきたい。								
	園分掌は適切に分担され、運営されているか	60% 40% 0% 0% 100%	A	・少人数の職員であるため、日々の細やかな幼児の状況など、職員間の連携が取りやすい。必要な情報を共有して、より良い保育を実践していく。								
	職員間の共通理解、信頼関係に基づいて保育が行われているか	100% 0% 0% 0% 100%	A	・職員は、経験年数に大きな開きがあり、イメージの共有に課題が生じることもあった。それぞれのイメージによる保育を実現するために、意図の確認や思いを細やかに言語化しながら、職員で共通のイメージを持って保育していくように取り組んだ。								
	公簿類の整理及び処理と期日までに行い、関係書類の保存管理を適切に行えたか	60% 40% 0% 0% 100%	A	・日々送迎等で出会えない保護者とは、行事などに来てくださった時に顔を見て話す機会を意識しても、更には、電話や手紙、通信等を通じて情報を共有できるように努めた。								
	子育てについての相談がしやすい開かれた園づくりができたか	80% 20% 0% 0% 100%	A									
教育計画研究推進	研究主題「生き生きと豊かに遊ぶ幼児を育てる～言葉を通した人とのかかわり～」に基づいて課題を明確にし、組織的、計画的に園内研究に取り組めたか	20% 80% 0% 0% 100%	A	・今年度は教育委員会指導主事に日常の保育を見ていたり助言してもらえたが、とても有意義であった。「MAIDO」事業								
	園内研修や研修会などに積極的に参加し、指導力等質質の向上に努めたか	80% 20% 0% 0% 100%	A	・2学年で活動することも多く、教師がお互いの保育を見る機会にはなっている。次年度は3歳児保育も始まることを考慮し研究保育の機会を計画的にもつとうにしたい。								
生活・安全教育環境	危機管理に対する意識をもち、体制作りをしていたか	100% 0% 0% 0% 100%	A	・今年度は教育委員会指導主事に日常の保育を見ていたり助言してもらえたが、とても有意義であった。「MAIDO」事業								
	遊具・用具の安全な使い方を指導していたか	20% 80% 0% 0% 100%	A	・今年度は、実体験が多く取り入れる保育を意識して行った。その中でも、食育活動(よもぎ団子作り・誕生会おやつ作り・茶巾絞り・焼き芋・干し柿・お雑煮作り・カレー作り)など幼児自身が調理し、食する機会を多く持った。コロナ禍で家庭以外の味を知らない幼児も多かったが、自分で調理することで、今まで口にしてこなかった食材も食べるようになるなど、成果が見られた。今後は、視覚的にも幼児に分かりやすく行程を表示する等、工夫していきたい。								
	幼児の心身の健康に留意して、健康管理ができたか	60% 40% 0% 0% 100%	A	・防犯・防災などの行事を繰り返し行い、専門的な方の指導も受けながら、危機管理意識を常に持てるよう意識してきた。また、参観日に避難訓練を見せてもらうなど、保護者と共に学ぶ機会を設けることで、家庭でも防災意識が高まるように啓発を行った。								
	保健指導や食育指導が実践できたか	80% 20% 0% 0% 100%	A	・今年度は、講演会・研修会に参加し、教師が研鑽を積むことができた。そこで聞いてきたことや参考になった保育を教師間で共通理解し、保育でも実践していくことができた。								
	施設の整備点検、修繕管理ができ、園が生活の場として美しく整っていたか	60% 40% 0% 0% 100%	A	・令和5年度からの2園統合や3歳児保育の開始を見据えて、幼児用トイレが改修された。園庭遊具は、修繕等が必要なものもあるが、今年度予算では改修出来なかつた。今後も定期的な点検を継続し老朽化により修繕が必要なところは教育振興課やサポート員と相談しながら修繕していく。								
	消耗品や水道、電気など意識して節減に努めたか	100% 0% 0% 0% 100%	A	・公共料金の値上げもあり、職員が意識できるように職場などで使用料の確認などをを行い、意識啓発を心掛けた。								
	特別支援教育	特別支援教育コーディネーターを中心に、計画的・組織的に取り組めたか	80% 20% 0% 0% 100%	A	・児童について日常的に職員間で話をしているが、具体的な支援については悩む部分もあった。客観的、専門的な助言もいただきながら支援に生かしていきたい。							
保育指導	児童一人一人の困り感に寄り添った支援を話し合い、必要に応じて「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成し、支援内容の明確化と共有化を図っていたか	60% 40% 0% 0% 100%	A	・町や川養の巡回相談を実施し、専門家の意見を聞く機会が多く持てた。今年度受けたアドバイスを今後も継続できるように、職員間で再確認を行っていく。								
	遊びを通してルールや約束を守ることの大さや相手を思いやる気持ちをはぐくむことができたか	60% 40% 0% 0% 100%	A	・教師だけでなく、児童自身も友達が困っていたら声をかけ寄り添うことを大切にしている。児童の心の育ちの部分は育っている感じ。適切なかかわりや援助については教師もまだわからないこともある。引き続き巡回教育相談など専門機関とつながりながら、日々の支援に生かしていきたい。また、次年度はさらに、個別の指導計画を作成し支援内容の明確化、共有化を図るようにする。								
	児童が興味関心をもつ保育活動や豊かな体験ができる保育環境の工夫ができたか	60% 20% 20% 0% 80%	A	・児童の興味を引くために、ペーパーサポートを使った導入などが十分にできなかった。								
	自分の思いや考えを言葉で伝えたり、話を聞く態度を育てたりするなど、言葉の力の向上に取り組むことができたか	20% 60% 20% 0% 80%	A	・児童が自分の事や思いを話したい、伝えたいと思えるように、教師自身がじっくり聞く姿勢を大切にした。入園当初は、話したいことが上手く伝わらなかった児童も、言葉を考え、選んで、話せるようになり、会話力に成長が見られる。少人数の良さをいかしながら、個々の成長に合わせ、じっくりとかかわっていきたい。								
	あいさつや手洗い、衣服の着脱など児童の基本的生活習慣の形成に取り組むことができたか	60% 20% 20% 0% 80%	A	・学級活動の中で、言葉遊びや発表する時間を意識して設けた。言葉で伝える力は身についているように感じる。								
	遊びを通してルールや約束を守ることの大さや相手を思いやる気持ちをはぐくむことができたか	60% 40% 0% 0% 100%	A	・学校関係者評価委員の方から提言いただき、今年度は、4歳児にもCSSTを行なった。教師が、役になって演じ、それを児童が視覚的に見ることで、児童自身もイメージしやすく、積極的に考え方、学級全体で大切なことを共通理解する場を持つことができた。そこで学んだことを日常生活に返していくことができたと思う。								
	保育環境などを工夫し、児童の体力づくりに努めたか	40% 20% 20% 0% 60%	A	・児童は、着替えた後、畳んでしまうなどまだまだ難しい。今後も丁寧に指導していく。								
保護者・地域異校種交流	生き物の世話や植物の栽培を通して生命の大ささを指導できたか	40% 60% 0% 0% 100%	A	・野菜の栽培では、うまく育たないものがあったので、この地域にあった栽培(土づくり、種まきの時期など)についてよく知っている人に教えてもらないうちに取り組んでいきたい。								
	一人ひとりの良さやがんばりを認め励まし、個々に合った指導ができたか	60% 40% 0% 0% 100%	A	・少人数の良さもあり、個々の成長を日々感じられることが多かった。一人の教師が頑張りに気づいたら、他の職員にも広げ、たくさんの称賛の声を児童に返すことが出来た。そのことが、児童の自信につながっていると感じられることが多かった。今後も、児童の育ちに細やかに目を向けていきたい。								
	園での出来事や児童の成長について機会あることに伝え、保護者との連携を図ることができたか	80% 20% 0% 0% 100%	A	・未就園児との交流活動「いなほ広場」は、未就園児親子が楽しみに参加してくださる様子があり、例年より参加者も増えた。次年度、入園へ期待を膨らます未就園児や幼稚園の様子が分かって安心する保護者が継続的に参加して、園児とも名前を呼び合い、積極的にかかわる場となった。次年度は、さらに参加者が低年齢となるため活動内容を工夫するとともに、園の活動を広く知ってもらうために、幼稚園説明会やキッズフェスティバルへの参加など広報活動に力を入れていきたい。								
	未就園児と在園児との保育を計画的に実施し、子育て支援に取り組むことができたか	80% 20% 0% 0% 100%	A	・4歳児は、同じ学級になる仲間、年長児は、中学校で同じ中学校になる仲間という思いでかかわりを深め、3学期には互いに名前で呼べるようになった児童もいた。本園にとっては、集団活動を経験する場としても、意義ある交流となった。2園の保護者の顔合わせやPTA活動について連絡調整もすることが出来た。統合後も、安心して登園できるよう保護者とも細やかに連携していく。								
	地域やPTA活動に関心をもち、積極的に参加・協力ができたか	20% 60% 20% 0% 80%	A	・コロナ禍より緩和されてきていたので、より交流を密にしていく計画をしていく。								
	幼・小・中の連携を、ねらいをもって計画的に推進できたか	20% 60% 20% 0% 80%	A	・トライするウィークが再開し、中学生との交流が持てたことは、児童の刺激となつた。小学校とは、2学期後半より行事に参加させてもらう等、子どもの交流の機会をもつことが出来た。小学校のイメージがもてた、児童との交流がもてたなど成果は十分あった。計画的にすめることができなかつたので、来年度は、3小学校区に広がる分、計画的に交流していきたい。								

評価 A:80%以上 B:70~79% C:60~69% D:59%以下